

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和7年2月28日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課	高知県文化生活部 歴史文化財課
-----	---------------	-----	--------------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	<p>○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う)</p> <p>○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う)</p> <p>○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)</p>		
施設内容	<p>○面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 展示室(51.63㎡)</p> <p>開館時間:午前8時半～午後5時 休館日:土・日・祝祭日、12月29日～1月3日 (巡回展の期間中及び公開講座等開催日の日・祝祭日は開館)</p> <p>利用料金:無料</p>		
職員体制	常勤職員: 6名(管理職1名、県派遣職員4名、財団事務職員1名)		

2 収支の状況

単位:千円

		令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(予算)
収入	県支出金	35,315	46,526	51,590
	補助金等収入	1,610	1,800	
	その他	341	318	
	収入計 (a)	37,266	48,644	51,590
支出	事業費	9,033	11,938	10,741
	管理運営費	13,937	14,382	15,652
	人件費	14,296	22,324	25,197
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	37,266	48,644	51,590
収支差額 (a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	3,445	3,542	3,700
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示企画や関連行事、公開講座への参加者に対して、その都度アンケートを実施することで意見や感想の収集及びニーズの把握に努めた。 回答数:3,568(館外での講座を含む)		
	○ 利用者意見等を踏まえた対策 ・各講座後に受講者アンケートを実施し、結果を次年度の講座内容等に反映させている。 ・山城について取り上げてほしいという要望にR6年度は「土佐の山城歩き」というフィールドワークを実施。		
	○ その他(以下は、アンケートの一部) ・遺跡展について、年代ごとにプレートが色分けされていて分かりやすかった。 ・近世の高知城と城下町、発掘成果がよく分かった。 ・久しぶりに埋文センターを訪問し、施設が整備されており、展示品も良かった。 ・遺跡を公開展示する際、現在の地図等もあれば場所が分かりやすくなる。 ・発掘調査する機会があれば携わりたい。 ・校外学習の際に土器等展示物を触り、貴重な体験ができた。 ・自身が住んでいる街の歴史について学べて良かった。 ・ものづくり体験教室について、材料費等費用がかさむと思われるため、もっと参加費を高くしてもよいのではないか。 ・まいぶんセンターまつりについて、子ども達の姿が多く、楽しそうで感心した。身近な博物館を感じた。		
③その他特記事項			
4 令和5年度業務評価			
項 目	状 況 説 明		
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・協定書、事業計画書の内容に従って適正な管理が行われた。 ・設備の管理について、点検作業を行い、設備の不具合等の早期発見に努め、必要な修繕等を実施した。 ・消防計画を基に訓練を実施し、利用者の安全確保に努めた。 ・日常的に館内清掃や廃棄物の分別、施設内及び周辺の植栽管理ができている。 		
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料をデジタルデータ化し、展示パネル等に活用している。 ・コロナ禍で中止していた「まいぶんセンターまつり」を開催し、各種教室の定員増加を図ったことにより来館者が対前年度比2%増となった。 ・発掘調査報告書、パンフレット及び年間行事カレンダーなどをインターネット上で公開し、最新のデータを閲覧・ダウンロードできるように努めた。 ・各講座申込みをWebで行うなど、参加者の利便性向上に努めた。 		
③利用実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等による団体見学は、15団体284人(昨年度11団体260人)と増加している。 ・広報普及事業の中核である出前考古学教室は、66校(2,392人)を対象として、出土遺物に触れる機会を提供し、文化財保護意識の普及啓発が図られたといえる。 ・歴史や考古学に興味を持つ児童生徒が、研究等で来館や問合せをしてきた際、情報や資料提供など積極的に協力していた。 ・フィールドワークを実施することにより、地域の歴史、文化財に対する興味や関心を喚起することができている(年3回65人)。 ・報告書と収蔵遺物の照合作業を行い、破損や注記の風化が確認された2,767点について接合・補填・注記等の修復作業を行っており、収蔵遺物の再整理ができています。 ・地域展について、市町村の歴史を考える機会の創出ができており、また、市町村が持つ出土遺物の再整理の支援となり市町村職員、住民ともに知るきっかけとなっている。 		
④収支の状況	高知県からの指定管理代行料に加え、文化庁の国庫補助金を活用するとともに経費の節減に努め、業務に要する適正な経費を支出後は残額を県に精算返納した。		
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設館内の維持管理は適正に実施できている。 ・地域に根付いた地道な広報活動等により、入館者は対前年比で増加している。 ・テーマ設定に基づく展示企画とそれに関連する講演会等の内容の精選と充実を図り、利用者から好評であった。 ・埋蔵文化財センターの設置目的である埋蔵文化財への理解と保護を目指し、情報発信と各種企画展、各種講座、出土遺物に触れる機会の提供等センターがもつ特色を活用し、施設利用者の確保や文化財保護意識の普及啓発に努めていることは高く評価できる。 	

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの